今年の情勢と方向

〝CO患者を守る会〟を中心に全国へ働きかける

組合長　宮川　睦男

新しい年を迎えるに当って、今年こそは、と決意をします。そしてたたかいに取り組みながら、また新しい年を迎えました。果して昨年の決意がどのくらい生かされたかどうかについての検証、総括があまりなされぬままに新しい決意をする、といったことが繰返されてきたのではないかと反省する必要があると思われます。

CO立法闘争はどうだったか

解雇制限、前收補償、完全治療の三つの柱をたたかいとることに意志統一し、総評・炭労指導のもとに全国の仲間に訴え、交流を深めた中で昨年の特別国会を迎えました。「健保国会」といわれた中でのCO立法闘争に非常に困難をきわめましたが、主婦たちの坑底座り込み、労仂省前でのハンストといった、やむにやまれぬ人間の叫びは世論を動かしました。

その結果、政府独占も当初の考え方を一歩ゆずり、まがりなりにも私たちの要求をある程度入れた上での制定をせざるをえなくなり国会ぎりぎりの段階で国会を通過しました。

しかしこの法律は決して私たちの満足できるものではありませんでした。解雇制限と前收補償は政府の行政指導と運営面にゆだねられましたし、完全治療もアフタケヤーとして二年間の補償しかありませんでした。したがってその中味は今後たたかいの中で確立して行く、といった内容でありました。

しかしこのたたかいの中で私たちは貴重な経験を学びました。それは「真実を叫ぶ人間の訴えは人の心を動かし世論を動かす」ということであり、「本気でたたかえば必ず前進する」ということであります。

このような私たちの闘いは、生命と労仂災害に対する認識を全体的に変えさせる力となり、総評全体としての労仂災害に対する闘いの中で昨年の特別国会を迎えました。

ぎりぎりの段階をむかえて

しかし、闘いは継続されています。こんどもつづけます。

対政府・三井鉱山の交渉も大詰めにき、いよいよ三池の最終的な態度をせまられる段階をむかえ、二十八日の中央委員会で私たちのぎりぎりの最終的態度を決定し、その実現は年をこすこととなりました。

その他の闘いについて

総選挙と統一地方選挙闘争はこれこそ全力投入をしました。

しかし今回の選挙は、資本が前面に出て、転制と金の力をもって全力投球を行なった北九州市長選挙に応ずるかどうかの問題がおこり、全体的には再び闘いに対する再認識がもえあがりはじめるといった状態で、深く反省しなければなりません。

今年度の目標は何か

以上の反省と総括の上に立って本年度の目標は何か、と言えば、まず年を越した「CO、遺族のたたかい」をあげなければなりません。

すなわち私たちの指標である解雇制限と前收補償ならびに完全治療のたたかいは、具体的には政府、資本の側が破ろうという意図をもって、すべてが治癒認定されたものであるという前提に立って攻撃をしかけてくることは明らかです。

その場合、私たちは組合推せんの医師団の見解を基礎に、これをあくまで守り通すという具体的なたたかいを行なわなければなりません。

まず第一に、療養継続の必要あると認定されたものは、あくまで治癒は認めないで治療を継続させます。

第二は、組合推せん医師団の坑外における軽作業ならばできると判断された者は、絶対に坑内に下げません。

第三は、配置転換された者に対する障害認定七級の闘いです。

そして具体的には、解雇制限を含む私たちの三指標をあくまで貫くたたかいをさらに決意を固める要があります。

どのように闘いを発展させるか

私たちのたたかいは、単なる患者を守るというたたかいでないことはもちろんです。したがって、このたたかいは生命を守る反合理化のたたかいであり、現行法を打ちやぶるという政治目標でもあるわけです。

そのためには、私たちだけの力で解決できうる性質のものではないことは明らかであり、どれだけ多くの力を結集しなければならないかがそのポイントであります。

その運動の方法として、全国に「三池CO患者を守る会」の組織化が、私たちの重要なる闘争の指標となります。そのためには大衆路線のうえにたち、三池労組員、主婦会員全員が立派なオルガナイザーとなることが、「守る会」の組織ができるかできないかのカギであります。

いうまでもなく、この守る会はその基本は反合理化闘争、生命を守る活動者集団であり、いわゆる反体制の主体になるような実体をもった組織でなければなりません。

具体的にはここからはじめよう

以上のような考え方に立ってまず、三池の考え方を、炭労、総評になにがなんでも理解してもらうことが、その出発点になります。

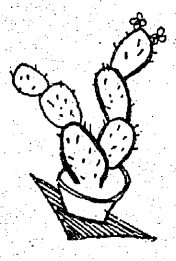
つぎは、このような理解のもとにわれわれの考え方をどのように多くの人に理解してもらうか、つまりマス・コミのはたす役目がますます重大となってきます。現在までも努力を重ねてきましたが、今後の宣伝活動の範囲も拡大され内容的にも質的にも変えなければならない段階をむかえています。

第三に、民主的諸団体との連携強化であります。全国のまじめな活動者に対する働きかけやオルグの受け入れ、交流などについてはいちだんと強化しなければなりません。

第四は、敵の攻撃を真正面から直接うけているCO患者を守りぬくことです。転場の中で私たちが守り抜くということは、いままでのたたかいとはちがった意味で重要さがましてきますし、しかも、多種多様な具体的内容を伴ったたたかいと同志的愛情が結合されなければなりません。

おわりに

私たちのたたかいは以上のことが今年度のすべてのたたかいに優先し、このたたかいをたたかい抜くことそのものが他のたたかいを前進させることができるという理念に立って、総力を結集しましょう。



謹しんで新年の御挨拶を申しあげます

会長　久保時江

組合員主婦会家族の皆様明けましてお目出とうございます。

合理化と労仂強化、諸物価の値上げによるしめつけの中でたたかいに明けくれました。主人たちにとって家族のはげましと支えは主婦会の活動の大きな柱です。そしてこの活動のかげには、良人のいたわりや家族全員の理解と協力なしにはできないことをしみじみ考え、お父さんや家族の方に対して心からありがとうと申しましょう。

三川鉱大爆発――あれから四年の才月を迎えました。患者や家族のみなさん、そして遺族の方々にどんなに苦労してきたでしょうか。この間全国の仲間のみなさんにはげまし、支えられ生命を守るCO中毒法制定のたたかいに立ち上がり、今次七月の段階で一応法津化することができました。もちろんこのたたかいの陰には家族のみなさんの坑底座り込みや、中央においてのハンストなど数多い抗議行動の積み重ねによって全組合員・主婦会員との連帯の中から、そして全国の仲間のみなさんの支えによって、勝ち得た成果をみなさんとともに高く評価し、終生忘れることはできないと思います。しかし、多くの問題点をのこしました。

また、石炭産業に仂く主人たちも、いま以上にきびしい合理化攻撃が加えられることも必死です。内転や外転によって家計を維持しながら良人をはげまし子どもを守ってこられた主婦会のみなさんも、就労後から今日までほんとに大変なことだっただろうかと考えさせられ、夜もねむれないようなこともあったことと思います。

CO問題にしても必ずしも取りくみが十分だったとは思えません。新しい年を迎えました今後もあらゆる障害をのりこえみんなで頑張りましょう。

危険な転場に仂く労仂者にとり安心して仂き、生活するためになにより大切なことは、生命を守り、保安の確保を願うのが主婦の切なる願みです。炭鉱の事故からふたたび未亡人をだしてもらはないためにも、私たち主婦の果す役割は貴重なものです。合理化計画により中小の山がどんどんつぶされ、多くの仲間が炭婦協の戦列からはなれ、住みなれた炭住街に別れをつげています。主婦会としてこんな淋しさを感じることはありません。

炭鉱に仂く労仂者と家族は毎年苦労してきましたが、合理化闘争を経験した私たちこそ、石炭産業を希望のあるものとして世代に引き継ぐ責任があります。このような現状のなかで、私たちの運動は過去の悔を再びくり返さないため、めまぐるしい社会の移り変りに目を向け、いかなる資本の攻撃にもおそれず、仲間とはなれず、新しい年の闘いに向かって主婦会運動に積極的に努力していきましょう。

私たちは、どんな苦難にもめげず患者を守り、遺族を守り抜くため頑張ることによって、正しい歴史を一歩一歩作り出していることに誇りをもって、今年もみんなで仲良く進んでいきましょう。

組合員、主婦会員の皆さまのご健康を心よりお祈りしまして、新年のご挨拶と致します。

〝CO患者を守る会〟を中心に全国へ働きかける

立法段階を終って

社会一般は「CO患者は救われた」「CO闘争は終った」と思いこんだことも事実であります。私たちの内部にも、そのような空気があったことも事実です。

その間に政府・独占は失地回復にやっきとなりました。

また、経過措置としての療養補償についての責任を負わず、経済的に組合を追いこみ、二～三審の強要をせまる態度にでてきました。

政府・独占資本の意図は、あくまで現行法の枠内処理と法律の骨ぬきにあると同時に、CO患者をまっ殺することでした。

このような政府・独占のかまえに対するわれわれの闘いは、はたしてどうだったでしょうか。まず第一にいえることは、なんといってもCO立法により「やれやれ」といった気持が全体的にあったことです。指導部は「これからが、より重大な闘いである」と口では力説しながら、具体的指導が不十分であり、法施行段階から二～三審に応ずるかどうかの問題がおこり、全体的には再び闘いに対する再認識がもえあがりはじめるといった状態で、深く反省しなければなりません。

今年度の目標は何か

以上の反省と総括の上に立って本年度の目標は何か、と言えば、まず年を越した「CO、遺族のたたかい」をあげなければなりません。

すなわち私たちの指標である解雇制限と前收補償ならびに完全治療のたたかいは、具体的には政府、資本の側が破ろうという意図をもって、すべてが治癒認定されたものであるという前提に立って攻撃をしかけてくることは明らかです。

その場合、私たちは組合推せんの医師団の見解を基礎に、これをあくまで守り通すという具体的なたたかいを行なわなければなりません。

まず第一に、療養継続の必要あると認定されたものは、あくまで治癒は認めないで治療を継続させます。

第二は、組合推せん医師団の坑外における軽作業ならばできると判断された者は、絶対に坑内に下げません。

第三は、配置転換された者に対する障害認定七級の闘いです。

そして具体的には、解雇制限を含む私たちの三指標をあくまで貫くたたかいをさらに決意を固める要があります。

どのように闘いを発展させるか

私たちのたたかいは、単なる患者を守るというたたかいでないことはもちろんです。したがって、このたたかいは生命を守る反合理化のたたかいであり、現行法を打ちやぶるという政治目標でもあるわけです。

そのためには、私たちだけの力で解決できうる性質のものではないことは明らかであり、どれだけ多くの力を結集しなければならないかがそのポイントであります。

その運動の方法として、全国に「三池CO患者を守る会」の組織化が、私たちの重要なる闘争の指標となります。そのためには大衆路線のうえにたち、三池労組員、主婦会員全員が立派なオルガナイザーとなることが、「守る会」の組織ができるかできないかのカギであります。

いうまでもなく、この守る会はその基本は反合理化闘争、生命を守る活動者集団であり、いわゆる反体制の主体になるような実体をもった組織でなければなりません。

具体的にはここからはじめよう

以上のような考え方に立ってまず、三池の考え方を、炭労、総評になにがなんでも理解してもらうことが、その出発点になります。

つぎは、このような理解のもとにわれわれの考え方をどのように多くの人に理解してもらうか、つまりマス・コミのはたす役目がますます重大となってきます。現在までも努力を重ねてきましたが、今後の宣伝活動の範囲も拡大され内容的にも質的にも変えなければならない段階をむかえています。

第三に、民主的諸団体との連携強化であります。全国のまじめな活動者に対する働きかけやオルグの受け入れ、交流などについてはいちだんと強化しなければなりません。

第四は、敵の攻撃を真正面から直接うけているCO患者を守りぬくことです。転場の中で私たちが守り抜くということは、いままでのたたかいとはちがった意味で重要さがましてきますし、しかも、多種多様な具体的内容を伴ったたたかいと同志的愛情が結合されなければなりません。

おわりに

私たちのたたかいは以上のことが今年度のすべてのたたかいに優先し、このたたかいをたたかい抜くことそのものが他のたたかいを前進させることができるという理念に立って、総力を結集しましょう。